

一瞬の勇気

小牧市立桃陵中学校

あの時、勇気を出さなければ、この地に足を踏み入れていないかもしれない。
中学二年生の春、私は市の開催するアメリカの友好都市への派遣事業に参加しました。
一緒に行ったのは、家族でも友達でもありません。今まで話したことなかった、違う中学校の先生や生徒たちでした。

この派遣事業を知った時、興味はあったものの、参加しようとは考えていました。
自分が行けるとは思っていなかったからです。担任の先生と進路の話をしている時、この派遣事業があることを話しました。先生が「あなたなら行ける」と背中を押してくれたので、私は応募し、アメリカに行けることになりました。

アメリカでは、ホームステイ、学校体験、シアトル観光などをしました。現地に着いてすぐ、ホストファミリーに会いに行きました。「どんな人なんだろう。」移動中、私たちは、期待と不安で張り詰めた雰囲気に包まれていました。会ってみると、私を温かく迎え入れてくれました。バディのサミは、緊張している私を優しくリードしてくれました。家はとても広く、地下室があることに驚きました。サミといろいろなことをして遊びました。裏庭でソフトボールをしたり、近くの湖でサップボードをしたりしました。一緒に映画を見たり、ジエンガもしたりしました。違う言語を話していても、楽しめるように工夫してくれて嬉しかったです。学校体験では、日本文化との違いを学びました。学校は、とても賑やかでカラフルな場所で、いるだけで楽しい気持ちになりました。新しくできた友達やすれ違う人たちもたくさん話しかけてくれました。名前や学年を聞かれて、答えると、「あなたは、もう私の友達だよ」と言ってくれ、フレンドリーな様子にびっくりしました。身振り手振りで伝えようと頑張っていたら、しっかり伝わりました。少し壁はあるけれど、友達ができたことは、とても自信になりました。この経験を通して、異なる考え方を持った相手に、自分の意思を正確に伝えたいという気持ちを大事に、もっといろいろな表現を学び、英語という「言語」を日本語と同じくらい自由につかえるようになりたいと思いました。多文化社会で生きていく私たちは、言葉を通してつながり、自分が持っている可能性を分かち合えると思います。これからも勉強に励み、夢に向かって、前へ進んでいこうと思います。

この派遣で学んだことは、勇気が一番大切であるということです。「勇気は一瞬、後悔は一生」という言葉を聞いたことはありますか。私は、応募していなければ後悔していました。一瞬の勇気により、大切な仲間に出会い、新しい友達もできました。

また、この経験は、部活動にもつながりました。私は、ソフトボール部です。チームプレイのスポーツとして、一人一人のプレイが勝敗に大きく関わります。ピッチャーのときは、変化球を投げてみたり、バッターのときには、バントをしてみたり、自分で判断してプレイすることにも勇気がいります。

私はこの経験で、勇気が自信になることに気付きました。これからの生活にも、この経験で得た自信をもとに、仲間と一緒に学びを深めていきたいと思います。高校へ行って、新しい仲間と楽しく、賑やかな生活が送れる事を夢見て、中学校生活残り一年、一生懸命頑張ります。